

5 新病院整備の概要



病床規模

当院の2025年度の将来推計入院患者数を試算すると1日平均191.3人となり、目標の病棟稼働率を85.0%~90.0%に設定した場合の必要病床数は、213床~225床と試算されます。

基本構想においては、新病院の**病床規模を220床程度**とします。

施設規模

近年の他地域における公立病院の整備実績である1床当たり85㎡程度を目安とします。

基本構想においては、新病院の**延床面積を18,700㎡程度**とします。

建設場所

当院の果たすべき役割に基づく必要な医療機能を整備することを前提として、多くの住民の利便性を考慮し、新病院の**建設場所は駒ヶ根市内**とします。

整備事業費 (概算見込み)

病院本体の建設費は84億円程度と見込まれます。このほか、設計、医療機器、付属設備、外構・周辺整備等の費用や、建設地によっては用地取得費や造成費等が別に必要となります。今後策定する基本計画、基本設計等の各段階において総事業費の精査・縮減に努め、経営計画において適正な範囲内の負担となるよう慎重に検討します。

運営形態

伊南地域唯一の公立病院であり、地域の基幹病院として今後の経営形態を検討した結果、医師、看護師をはじめ医療従事者の数が少ない上伊那医療圏における人材確保の課題などを踏まえ、基本構想では、現在の経営形態を最適とし継続することとします。

整備スケジュール

基本構想策定から新病院開院までの流れ



■ 基本構想策定着手から新病院開院まで**最低5~6年の期間**を要します。今後、建設地や整備手法等の検討が進み、基本計画を策定していく中において、整備スケジュールや新病院開院の時期等についても具体化していきます。

ご意見の提出方法

ご意見の記入用紙は、構想(案)の閲覧場所に設置いたします。用紙に必要事項をご記入の上、郵送などにより提出してください。電話、口頭での受け付けはできません。

提出先

〒399-4117 駒ヶ根市赤穂3230番地
昭和伊南総合病院 新病院建設準備室

提出方法

①郵送 ②持参 ③FAX 82-8230
④電子メール info@sihp.jp

提出締切

7月28日(火)

お寄せいただいたご意見について

- ご意見は、個別、直接の対応はせず、募集期間終了後、回答を付して公表します。なお、賛否のみを記したご意見及び新病院建設基本構想(案)以外のご意見については公表いたしません。
- お寄せいただいたご意見は、個人情報を除きそのままの形で公表する場合があります。また、同様のご意見は集約することがあります。

お問い合わせ

伊南行政組合 昭和伊南総合病院 新病院建設準備室 TEL.82-2121 内線2603

伊南地域にお住いの皆さんへ



伊南行政組合

昭和伊南総合病院

新病院建設基本構想(案)に対するご意見をお寄せください

昭和伊南総合病院の現施設は開院から37年が経過し、施設の老朽化により抜本的な再整備が必要な段階に至りつつあります。この課題に対し、有識者や住民代表、関係機関の皆さんで構成する「昭和伊南総合病院あり方検討委員会」において今後の病院の方向性についてご検討をいただき、令和元年11月に提言書としてまとめられました。

伊南行政組合では、この提言を踏まえ、昭和伊南総合病

院の建て替えに向けた基本的な考え方や方向性を「新病院建設基本構想(案)」としてまとめました。

今回、この「新病院建設基本構想(案)」に対する皆さまからのご意見を募集しますので、ご意見等のある方は以下の方法により提出してください。

※このチラシは構想(案)の概要版です。構想(案)は下記のホームページや閲覧場所でご覧になれます。

募集期間

令和2年6月29日(月)~7月28日(火)

提出できる方

伊南4市町村(駒ヶ根市、飯島町、中川村、宮田村)に住所を有する人
伊南4市町村内在勤、在学者または事業者、各種団体

構想(案)の閲覧場所 (意見記入用紙設置場所)

昭和伊南総合病院ホームページ(http://www.sihp.jp/new_hos.html)

または、昭和伊南総合病院新病院建設準備室、駒ヶ根市役所地域保健課、飯島町役場健康福祉課、中川村役場健康福祉課、宮田村役場福祉課及び住民課



ご意見の提出方法

この概要版の最終ページ下段をご覧ください。

新病院建設基本構想策定の経緯

当院の現状や社会環境の変化を踏まえた上で、当院が将来にわたって医療需要や環境の変化に柔軟に対応し、継続的に伊南地域の中核病院として周辺の医療機関との連携のもと高度医療や政策医療を確実に提供していくために、新病院のあり方や方向性等を検討し、新病院の建物・設備等を整備するための基本構想を策定しました。

1 当院を取り巻く環境と現状の課題

当院の属する伊南地域の人口は、減少傾向にある一方、高齢化率は増加傾向にあります(図表1)。伊南地域では、人口は減少しますが、高齢化の進行に伴って将来推計入院患者数は、2025年(令和7年)~2030年(令和12年)頃まで増加し、その後緩やかに減少に転じる見込みとなります(図表2)。

現状の課題として、主に「施設・設備の老朽化・狭隘化」、「医療提供体制の不足への対応」、「将来的な医療需要の変化への対応」の3点が挙げられます。また、現施設は診療開始後から37年が経過しており、医療の発展とともに高度化した医療機器や複雑化した医療体制に柔軟に対応するためにも早期に改善を図る必要があります。

■ 図表1: 伊南地域の人口推移・高齢化率



■ 図表2: 伊南地域の入院患者推計



2 新病院の目指す姿



地域住民の信頼に応える病院

- ～伊南地域の基幹病院として～
- 高度急性期～回復期機能及び在宅復帰支援までの切れ目のない医療の提供
 - 十分な説明と患者の意思を尊重した患者中心の医療

地域住民の安全安心を守る病院

- ～急性期医療を維持～
- 伊南地域の基幹病院として、急性期医療に対応
 - 24時間365日の救急対応体制の継続と体制強化
 - 災害医療提供体制の充実

将来に渡って地域を守り続ける病院

- ～安定した経営基盤の確立～
- 無理無駄のない施設整備の計画
 - 経営の効率化を図り、将来にわたって持続可能な病院経営

地域医療を支える病院

- ～地域完結型医療を構築～
- 近隣の医療機関と機能分担し、地域で医療を支える地域完結型医療体制の構築
 - 地域包括ケアシステムの構築に向けた連携体制の強化

やりがいと誇りを持てる魅力ある病院

- ～人材の確保と育成～
- 医師をはじめ、地域医療を担う医療従事者が働きやすい環境を整え、やりがいと誇りの持てる魅力ある病院づくり

地域住民の健康を支える病院

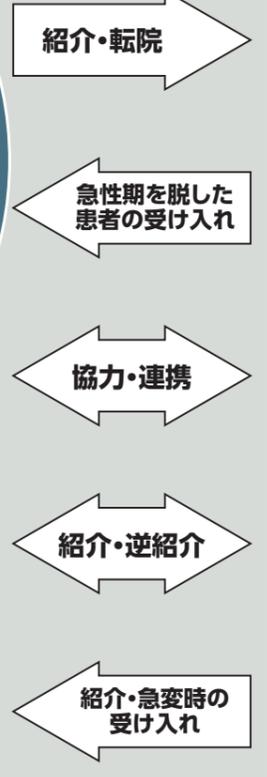
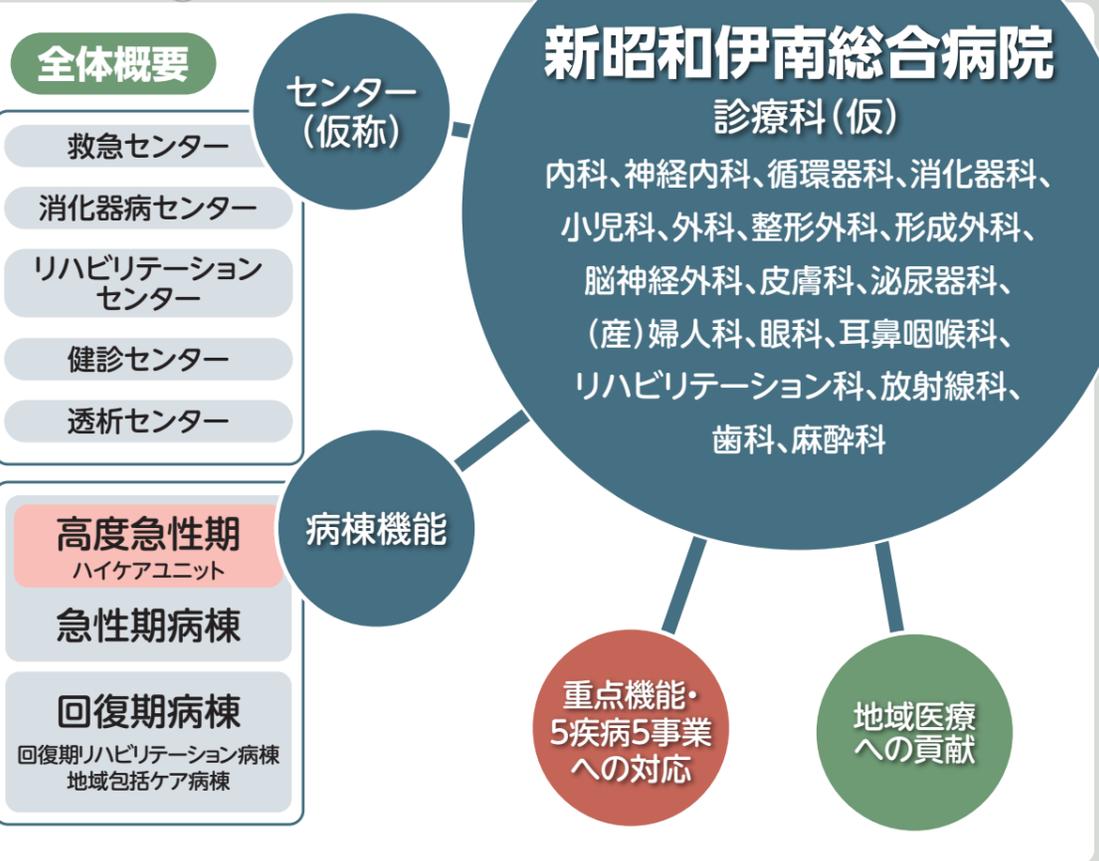
- ～健康を守る予防医療を提供～
- 市町村や地域からの需要に応え、健診・検診及び人間ドック等を充実し、地域住民の健康増進や早期発見・早期予防に寄与

4 新病院の概要



重点機能・5疾病5事業への対応

救急医療・循環器疾患	緊急性の高い循環器疾患（心筋梗塞、脳卒中等）への三次救急対応 地域需要の高い外傷等の整形外科疾患や小児に対する救急医療の強化・充実
がん医療	発生頻度の高い消化器、呼吸器、乳房及び泌尿器等のがんへの対応 口腔、皮膚及び眼等の希少がんについては伊那中央病院や信州大学医学部附属病院等の地域がん診療連携拠点病院と連携
リハビリテーション医療	各疾患の状態に応じた専門的なリハビリテーションの提供 回復期のリハビリテーションによるADL（日常生活における必要不可欠な行動）向上・機能回復を行うことで患者の早期の在宅復帰・社会復帰を支援
災害医療	災害発生時に上伊那医療圏南部（伊南地域）において、継続して医療を提供できる体制を構築
糖尿病医療（透析治療・重症化予防）	外来の維持透析及び伊南地域で唯一の入院透析治療を行うための透析センターを継続するとともに、専門的な治療・ケアが行える充実した診療体制を構築
小児医療（入院・発達障がい児対応）	小児地域医療センターである伊那中央病院と連携を取りながら地域における小児医療の充実
地域医療への貢献	
慢性期・在宅医療	在宅療養中の患者の急変時の受入れ態勢の整備と退院時の在宅復帰支援を実施
健診事業・予防医療	健診希望者の受入れ体制を充実するため施設・設備や人員体制の充実を図り、“健診センター”を強化
患者サポートの充実	多職種による入退院支援や関連機関との調整等を行う地域医療連携機能を強化
医師・医療従事者の確保と育成	研修・実習体制を充実し、将来にわたって継続的に地域医療を支える担い手の育成



- ### 他医療機関・介護・福祉・行政との連携
- 高度・先進医療
 - 救急医療（三次救急）
 - 小児医療（高度医療）
 - 周産期医療
 - 他病院・診療所等
 - 精神医療
 - 慢性期医療
 - 在宅医療
 - 地域包括ケアシステムの構築
 - 介護支援等

3 施設整備方針



患者にやさしい

- 医療安全や感染管理、プライバシーの保護に配慮
- 個室割合の高い病棟整備の検討
- ユニバーサルデザインを基本に、安全かつ快適な施設の提供
- 患者の療養環境向上のためのアメニティの充実

災害に強い

- 大規模災害発生時においても、継続して伊南地域に医療を提供できるよう、災害に耐え得るライフライン等の必要な設備の整備
- 大規模災害発生時のトリアージスペースや必要物資の備蓄スペースの整備

機能的で使いやすい

- 患者や医療従事者の効率的な動線計画の検討
- 医療従事者のための教育・研修環境やアメニティを整え、快適に働くことができる施設の整備

将来的な変化に対応できる

- 医療環境の変化に対応できる施設・設備の整備
- 将来的に新たな医療機器の導入や設備の更新などに対応できる柔軟性や拡張性を備えた施設・設備の整備

経済性を考慮

- 日常のメンテナンス費用や省エネルギー化による病院運営上のエネルギーコストを適正化し、ライフサイクルコストの低減を踏まえた経済性の高い施設の整備

街づくりを考慮

- 新病院建設場所の景観計画等に基づいた周辺環境に配慮した施設の整備

